

知的財産世界に発信

帯畜大「学術情報リポジトリ」開始

研究論文などネットで公開

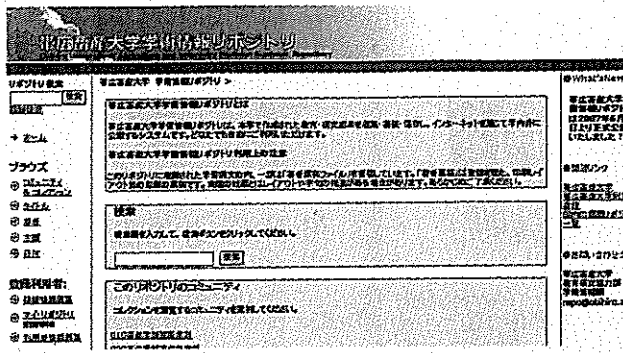
帯畜大「学術情報リポジトリ」は、6月から、教員が執筆した研究論文や学会発表資料などをインターネット上で無料閲覧できる「学術情報リポジトリ」の公開を始めた。

帯畜大の知的財産を世界中に発信、研究教育活動の説明責任を果たすことで、地域住民が大学への理解を深める効果も期待している。

リポジトリは保管庫の意味。研究者の情報交換を容易にするため学術情報界では世界的な流れで、国内でも北大や早稲田大などが取り組んでいる。

学内の電子的・知的生産物すべてが公開対象で、現在

帯畜大学術情報リポジトリのフロントページ



は獣医・農畜産分野を中心に、1972年からの論文など約8000点を網羅している。「食の安全」や「バイオエタノール」などのキーワードで検索できるほか、タイトルや著者、主題からも調べられる。論文は原則、全文を公開する。最新論文や49年から存在する学術情報をもとめた大学紀要なども、順次ホームページ(H.P.)に掲載する予定。

登録作業を担当する同大学術情報課は「農業や畜産分野、産学官連携など特色ある研究論文を地域の人も知ってほしい」と話している。問い合わせは同課(49・5341)へ。HPアドレスは <http://r.obhiro.ac.jp/dspace/index.jsp> (池谷智仁)

教育・研究成果を収集・保存して、学内外に発信しようとする昨年度から準備を開始。産学官連携や共同研究推進にも役立てる考えだ。論文のダウンロード回数を確認できる仕組みを作り、教員の意欲にもつなげる。